

教育の変化

2020年度の大学入試について、文部科学省から以下の発表がされました。

- ・ 英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の導入の見送り（2019年11月1日）
- ・ 大学入学共通テストにおける記述式問題導入の見送り（2019年12月17日）

なぜ、今、教育が変わるのか

21世紀の社会を生き抜く
ために必要な能力は
大きく変わる。

社会の変化 ①

あと10～20年で、
49%の職業が機械に
代替される可能性がある

社会の変化 ②

2011年にアメリカの小学校に
入学した子どもたちの65%は、
今は存在していない職業に
就くだろうと予測される

社会の変化 ③

約1/3の企業が
外国人留学生を採用。
特に1,000人以上の企業では
3社に2社とその割合は増加する

この数字は何でしょう？

53.8%

答え

現小1生が22世紀を
むかえる確率。

変化の激しい時代を生きる
子どもたちが、社会の中で
活躍できる**資質・能力**を
育成する

それが、新課程・新入試

どんな変化が起こるのか

1

学校教育が変わる

= 新学習指導要領へ

2

大学入試が変わる

= 大学入学共通テストへ

= 多面的・総合的評価

① 学校教育が変わる

未来を生きる子どもたちに
「どのような力(資質・能力)を
身につけるのか」「何ができる
ようになるのか」まで踏み込んで
求める教育へ

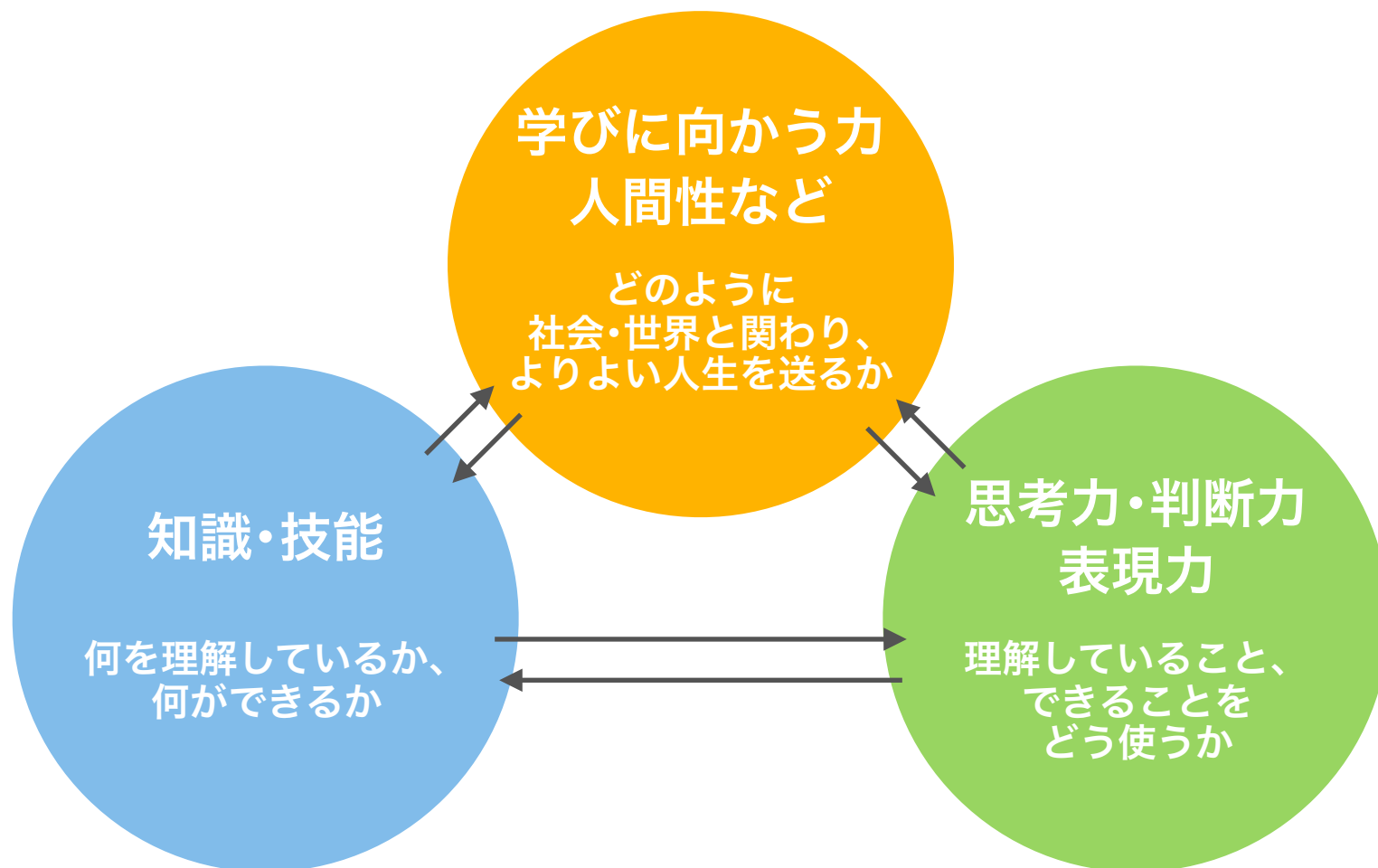
これまで

「学んだことをきちんと理解してるか（知識・技能）」
の評価が大きなウエイトを占めていた

これから

知識や技能を習得するだけではなく、
それをもとに「自分で考え、表現し、判断し、
実際の社会で役立てる」ことが求められる

育成を目指す資質・能力の3つの柱



資質・能力を身に付けるために
「どのように学ぶ」のか



「主体的・対話的で深い学び」を
取り入れた授業が実施される。

「主体的・対話的で深い学び」(≡アクティブ・ラーニング)とは。

教員による一方通行の授業から、
生徒自身が主体的・能動的に
参加する授業・学習へ。

- 発見学習
- 問題解決学習
- 体験学習
- 調査学習
- グループワーク
- ディベート
- 教室内でのグループディスカッション

資質・能力を身に付けるために
「何を学ぶ」のか



教科・科目の構成や
目標・内容が新しくなる。

教科、科目の新設例

- 小学校：3・4年生での「外国語活動」
5・6年生での「英語」教科化
- 高校：「公共」「歴史総合」「地理総合」
「理数探究」などの新設

小学校での 「プログラミング教育」必須化

- プログラミング言語やコーディングを学ぶことが目的ではない。
- 既存の教科の中で、問題の解決には必要な手順があることに気付くなど、基礎的な「プログラミング的思考」を養うのが主目的。
- 各教科の特質に応じた見方や考え方との相乗効果を狙い、「主体的・対話的で深い学び」の中で実現させるような指導内容で行われる。

2 大学入試が変わる

センター試験に代わり
「大学入学共通テスト」導入。
思考力・判断力・表現力も
問われるようになる。

大学の個別学力試験も、
多面的・総合的な評価が重視されるように。

「個別大学試験における 多面的・総合的評価」

個別試験や私立大学試験については整理・大別され、
多面的な能力や適性を評価する試験へ。

- 総合型選抜（現AO入試）・学校推薦型選抜（現推薦入試）

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の適切な評価のため、各大学が定め実施する評価方法もしくは「大学入学共通テスト」のいずれかの活用を必須化

- 一般選抜

筆記試験以外に、調査書・本人が記載する学習記録、成果などを積極的に加え評価